

者曰其乘白馬者廬井鯨也急追以射於是甲斐勇者馳追之比及鯨鯨急鞭馬馬能拔以出渾即馳之得脫將軍亦更還本處而軍之

〔續日本紀二十九〕神護景雲二年九月辛巳勅今年七月八日得參河國碧海郡人長谷部文選所獻白

鳥又同月十一日得肥後國葦北郡人刑部廣瀨女日向國宮崎郡人大伴人益所獻白龜赤眼青馬白

髮尾並付所司令勘圖諫奏稱○中顧野王符瑞圖曰青馬白髮尾者神馬也孝經援神契曰德協道行

政至山陵則澤出神馬仍勘瑞式白鳥是爲中瑞靈龜神馬並合大瑞朕以菲薄頻荷鴻貺思順先典式

覃惠澤宜免肥後日向兩國今年之庸但瑞出郡者特免調庸大伴人益刑部廣瀨女並授從八位下賜

絶各十匹綿二十屯貲布三十端正稅一千束略下

〔古事記傳十八〕又或說に白馬ハクバを青馬アヲウマと云例あれば雲に限らず白き物を青某アヲナニと云其は甚く白き

物は青く見ゆる故なりと云るも心得ず甚く白き物のいさか青みて見ゆればとて推て青と

はいかでか云むさては白と青との名混ひて分りがたしかの白馬節會を青馬とも云は白馬を

やがて青馬と云には非ず是は舊は實に青馬にて白馬には非ず故萬葉又文德實錄延喜式など

に皆青馬とのみありて凡て古書には白馬と作ることなきを後に更て白馬を用ひらるること

になりて白馬節會と云ひ又舊の名をも呼て青馬節會とも云なり平兼盛集に降雪に色もかは

らで牽ものを誰か青馬と名づけ初けむ是白馬を用ひられてなほ青馬と云名のある故の歌なり

〔新撰字鏡馬〕駮同倉江反馬白色又青色阿乎支馬

〔倭名類聚抄牛馬一〕駮馬音聰漢語抄云駮青馬也黃駮馬葦花毛說文云駮馬也日本紀私記云美太良乎乃字萬青白雜毛馬也

〔箋注倭名類聚抄牛馬七〕駮馬見雄略九年紀新撰字鏡駮訓阿乎支馬按葦花毛見拾遺集歌所引

馬部文原書無馬也二字玉篇駮青白雜毛色亦無馬字

〔南留別志三〕一さめ馬のさめは駮馬なるべし